

2014年度 新入社員意識調査結果

当社では、大垣共立銀行がお取引先企業の新入社員向けに開催している研修会の参加者を対象として、「新入社員の意識調査」を実施している。19回目となる今年度の調査では、例年質問している「就職する際の選択基準」や「将来就きたい地位」といった項目に加えて、「海外旅行や留学の経験」や「海外勤務に関する意識」についてアンケートを行い、グローバル化する雇用環境への新入社員の経験や意識について調査した。

調査の概要

- (1) 調査対象: 岐阜県・愛知県・三重県・滋賀県所在の企業302社の新入社員
- (2) 調査期間: 2014年3月17日～4月8日
- (3) 調査方法: 大垣共立銀行主催の新入社員研修会受講者(1,190人)に無記名方式で実施
- (4) 有効回答者数: 1,157人(有効回答率97.2%)

回答者属性

		全体	男性	女性
有効回答者数		1,157人	612人	545人
平均年齢		21.4歳	21.6歳	21.3歳
最終学歴	高校卒業	34.5%	34.4%	34.6%
	専門学校卒業	9.7%	9.8%	9.6%
	短期大学卒業	4.8%	1.5%	8.5%
	4年制大学卒業	47.3%	49.0%	45.4%
	その他	3.7%	5.2%	2.0%
居住地	岐阜県	46.2%	47.0%	45.2%
	愛知県	42.7%	41.8%	43.7%
	三重県	3.0%	3.0%	3.1%
	滋賀県	2.0%	1.5%	2.6%
	その他	6.1%	6.7%	5.4%
業種	建築業	7.4%	9.5%	5.0%
	製造業	37.0%	44.4%	28.7%
	卸売業・小売業	17.1%	13.7%	21.0%
	医療・福祉	9.4%	5.1%	14.3%
	サービス業	11.4%	9.1%	14.0%
	その他	17.7%	18.2%	17.0%

(注) 端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある(以下同じ)。

1 今年の新入社員像

(1) 就職先の選択基準

…男女とも「業種・事業内容」
「雰囲気・イメージ」に加え、安定性や待遇も重視

「入社を決めるにあたって何を重視しましたか(3つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「業種・事業内容」(67.5%)、2位は「雰囲気・イメージ」(54.4%)、3位は「通勤時間」(32.5%)となった(図表1)。

今年度も「業種・事業内容」を重視する傾向は変わらず、加えて「雰囲気・イメージ」を重視するようになってきた最近の傾向も変わらなかった。

4位の「会社の安定性」(32.0%)はここ数年低下していたが今年度は大きく伸びた。男女別にみても、男女とも「会社の安定性」の伸びが顕著だった。

他にも「休日・勤務時間」や「給与・ボーナス」も伸びており、安定性や待遇も重視する姿勢が強まった。

後述するが、今年度は将来就きたい地位で特に男性に

管理職志向が強まっていることからもうかがえるように、同一企業で働き続けることへの志向が高まりつつあり、従来からの「業種・事業内容」や「雰囲気・イメージ」を重視する傾向に加えて、会社の安定性や待遇にも注目が集まったと考えられる。

(2) 将来就きたい地位

- …男性は1位「管理職志向」が再び上昇、
2位「スペシャリスト志向」が低下
- 女性は1位「スペシャリスト志向」が上昇、
2位は再び「一般社員志向」

「あなたは将来どんな地位に就きたいですか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、「肩書きはなくても、特殊能力・技能のある社員(以下:スペシャリスト志向)」(41.5%)が例年と同じく1位となった(図表2)。2位の「肩書きのある社員(以下:管理職志向)」(30.9%)を目指す傾向は、2年ぶりに上昇した。

男女別にみると、男性では「管理職志向」(45.9%)が2年ぶりに上昇し、「スペシャリスト志向」(26.5%)が再び下落した。女性は例年と同じく「スペシャリスト志向」(58.3%)が圧倒的に強かった。2009年度以降上がり続けていた「管理職志向」(14.2%)が今年度は下がり、「肩書きは olmayan(平社員)(以下:一般社員志向)」(15.8%)が2位となった。

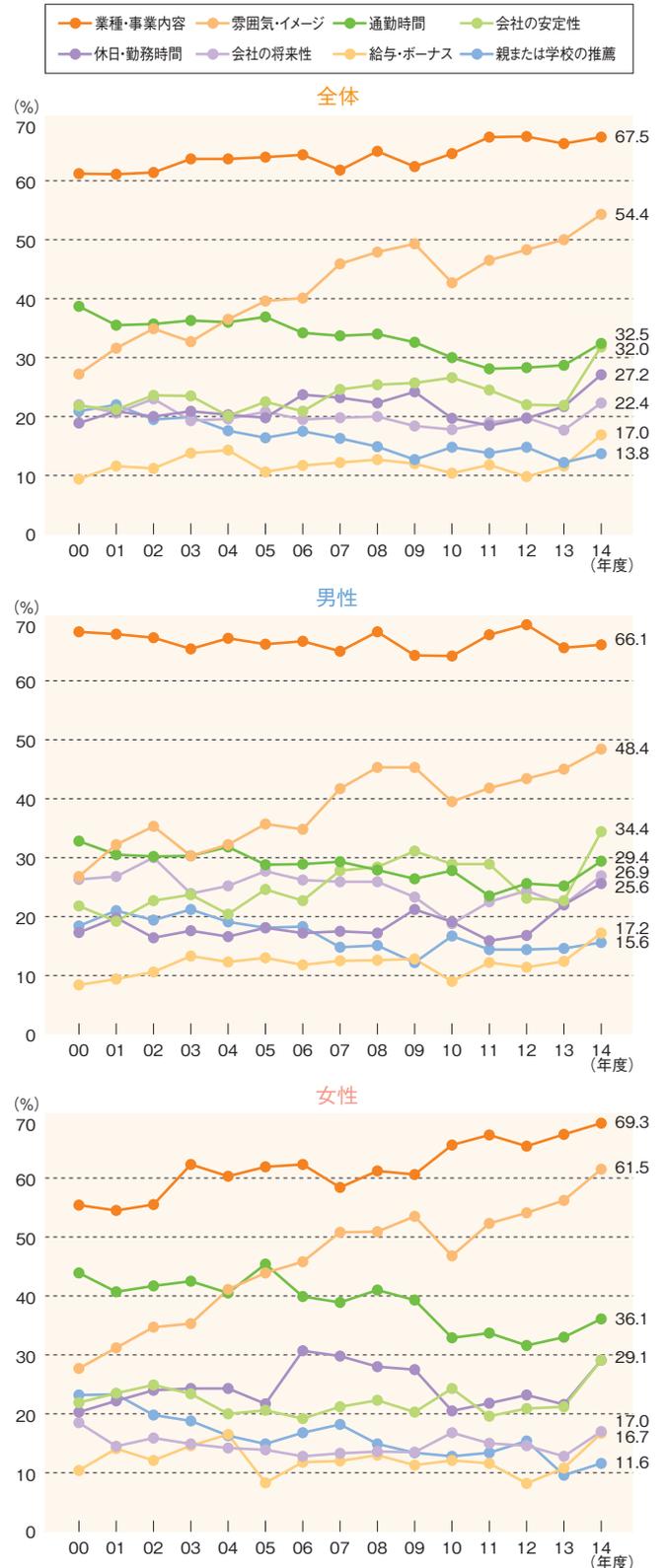
今年度は男性が会社で働き続ける志向が強まった一方、女性の活躍への社会的な期待の高まりとは裏腹に女性は会社で働き続けるとしても管理職は目指さない、より「現実主義的」な傾向に戻り、男女で傾向が分かれた。

(3) 上司・先輩との人間関係

- …男性は「積極派」に、
女性は「ほどほど派」に分かれる

「上司・先輩との人間関係はどのように考えていますか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、昨年度大きく上昇した

図表1 就職先の選択基準



「公私にわたって積極的に(以下:積極派)」(46.7%)が低下し、「義理を欠かない程度(以下:ほどほど派)」(46.1%)が上昇した(図表3)。

男女別にみると、男性では昨年度大きく上昇した「積極派」(51.9%)と昨年度大きく低下した「ほどほど派」(41.5%)とも今年度は大きく変わらず、「積極派」が「ほどほど派」を大きく上回ったままであった。

一方、女性では1位の「ほどほど派」(51.2%)が上昇し、2位の「積極派」(40.9%)が低下したことで両者の差が広がった。

このため、男性は「積極派」に、女性は「ほどほど派」に傾向が分かれた。

(4) 入社の際の不安

…上位2項目の「上司・先輩との人間関係」

「業界知識・業務内容」が男性は上昇、女性は低下

「入社にあたって不安に思うことは何ですか(3つまで選択)」と尋ねたところ、「上司・先輩との人間関係」(62.4%)が上昇し、2年連続で1位になった(図表4)。次いで「業界知識・業務内容」(61.7%)が僅差で2位となり、3位の「社会人としてのマナー」(49.8%)が大きく上昇した。

男女別にみると、男性では1位の「業界知識・業務内容」(66.2%)と2位の「上司・先輩との人間関係」(62.5%)がともに上昇した。

一方、女性では「上司・先輩との人間関係」(62.2%)が今年度も1位にとどまったものの、昨年度から低下した。また、2位の「業界知識・業務内容」(56.6%)もわずかに低下した。

ここでも男女の傾向が分かれ、男性では上昇した「業界知識・業務内容」「上司・先輩との人間関係」が女性では低下した。

(5) 初給与の使い道

…「家族に感謝」が7年連続で今年度も1位

男性は「自分の物を買う」、女性は「預金する」の上昇が目立つ

「初給与をどのように使いますか(2つまで選択)」と尋ね

たところ、1位の「家族に贈り物をしたり、食事をごちそうする(以下:家族に感謝)」(60.9%)と2位の「預金する」(58.1%)がともに上昇した(図表5)。

男女別にみると、男女とも両項目が上昇したが、特に女性では「預金する」(64.4%)が大きく上昇し、「家族に感謝」(63.9%)を7年ぶりに上回り、1位となった。これより前述した「一般社員志向」が再び強まっていることとも合わせて、「現実主義的」な傾向が強まっていると言える。

また、男性で目につくのは、3位の「自分の物を買う」が2003年からの低下・横ばい傾向から一転し、大きく上昇した。

一方、女性では「お世話になった人に贈り物をしたり、食事をごちそうする」が伸びており、ここでも女性の「現実主義的」な傾向がうかがえた。

(6) 理想の上司

…「タモリ」が3冠王

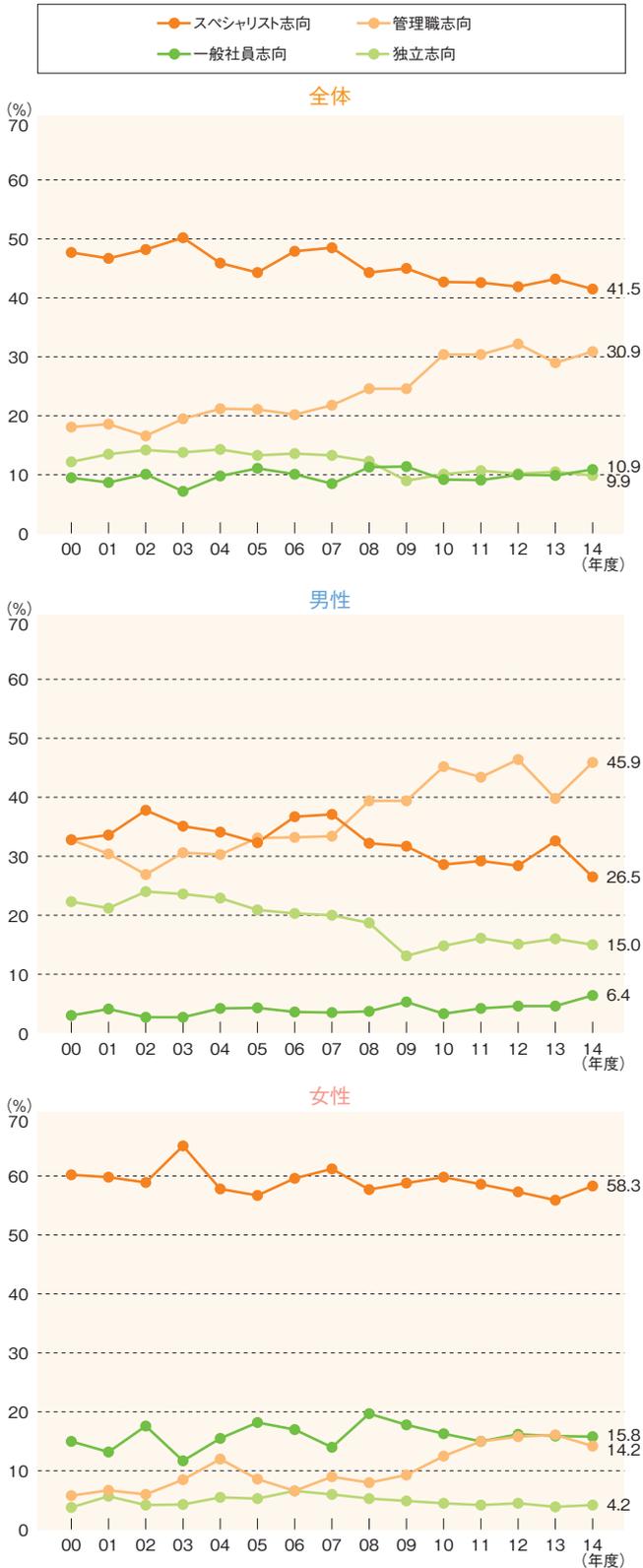
今年度の新入社員に、「あなたの理想の上司とはどんなタイプですか(自由回答)」と尋ねたところ、全体ランキングでは男性、女性新入社員ともに圧倒的支持を得たタモリが1位となり、1997年の理想の上司に関する調査開始以降、初めてトップの座に輝いた(図表6)。3冠王に輝いたタモリは、長寿番組の司会を一人で務めた並々ならぬ努力や、あらゆる物事に精通する人物像などが、大きな支持につながったと言えよう。

全体ランキングでは、昨年のテレビドラマで人気を博した堺雅人が5位に初ランクインした(昨年度全体15位)。仕事では強い意志と誠実さを持ち、一方、部下や家族の前では優しい顔を併せ持つドラマ上のキャラクターイメージが、理想的な上司像として支持されたようだ。

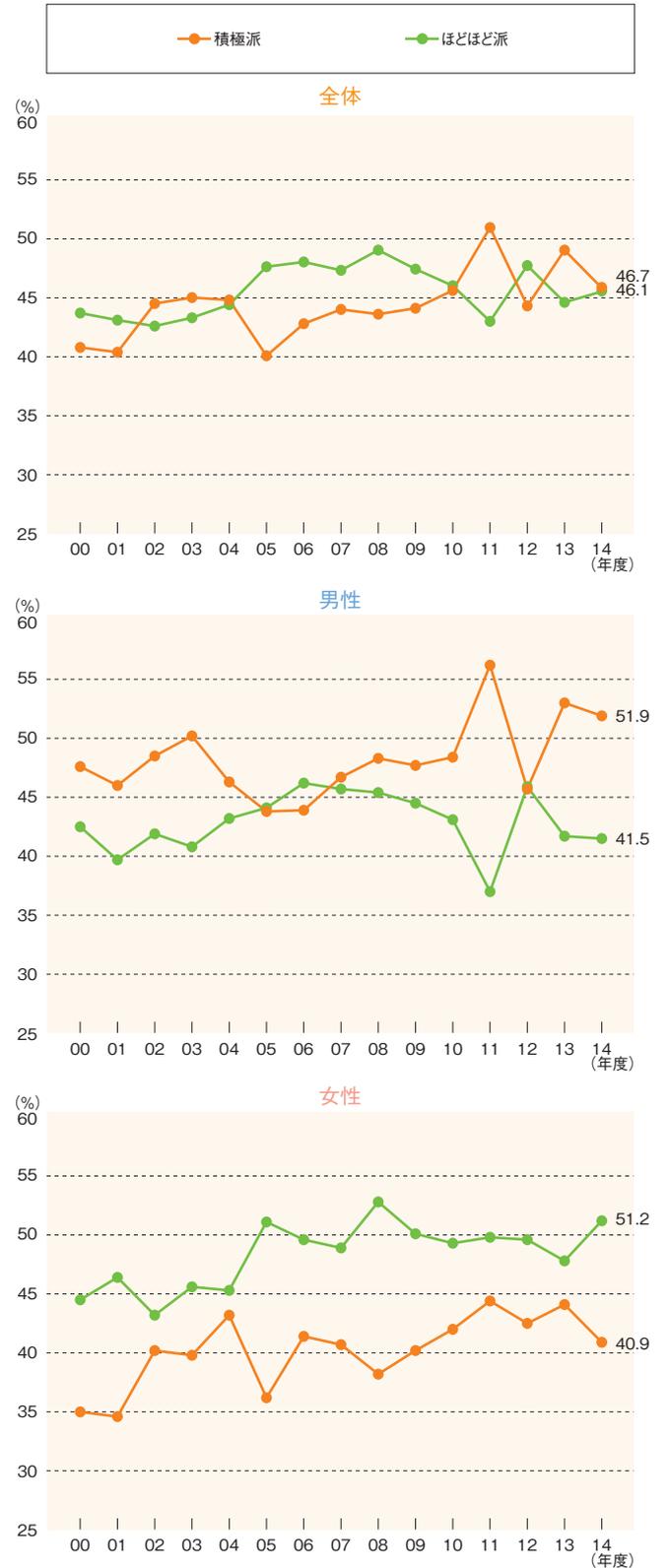
男女別では、両者とも1位はタモリとなったものの、2位にはいずれも昨年度まで3年連続1位に輝いていた、イチロー(男性新入社員)、天海祐希(女性新入社員)が入った。

女性新入社員の10位以内には、天海祐希、真矢みき、篠原涼子、江角マキコ、ベッキーの5名の女性が入っており、昨年度同様、同性である女性上司を望む声広がっている。

図表2 将来就きたい地位(わからない、その他を除いた項目の推移)

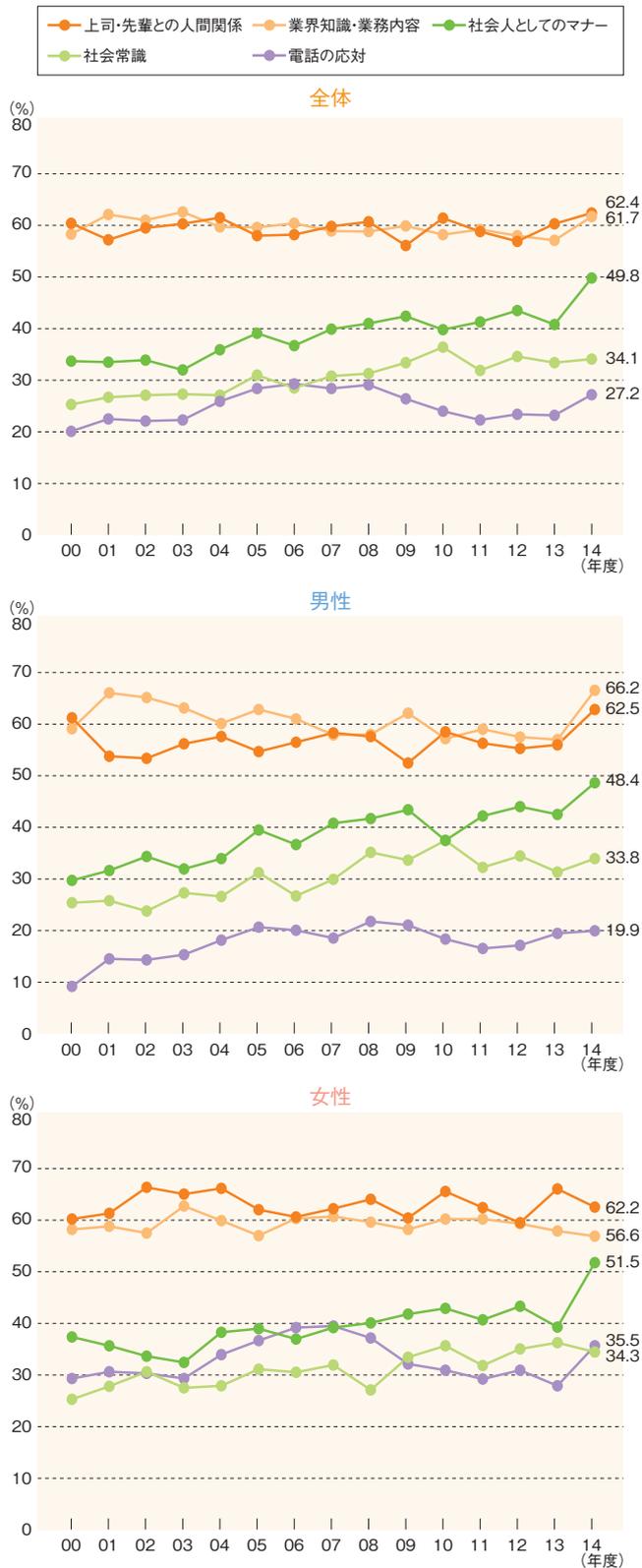


図表3 上司・先輩との人間関係(上位2項目の推移)

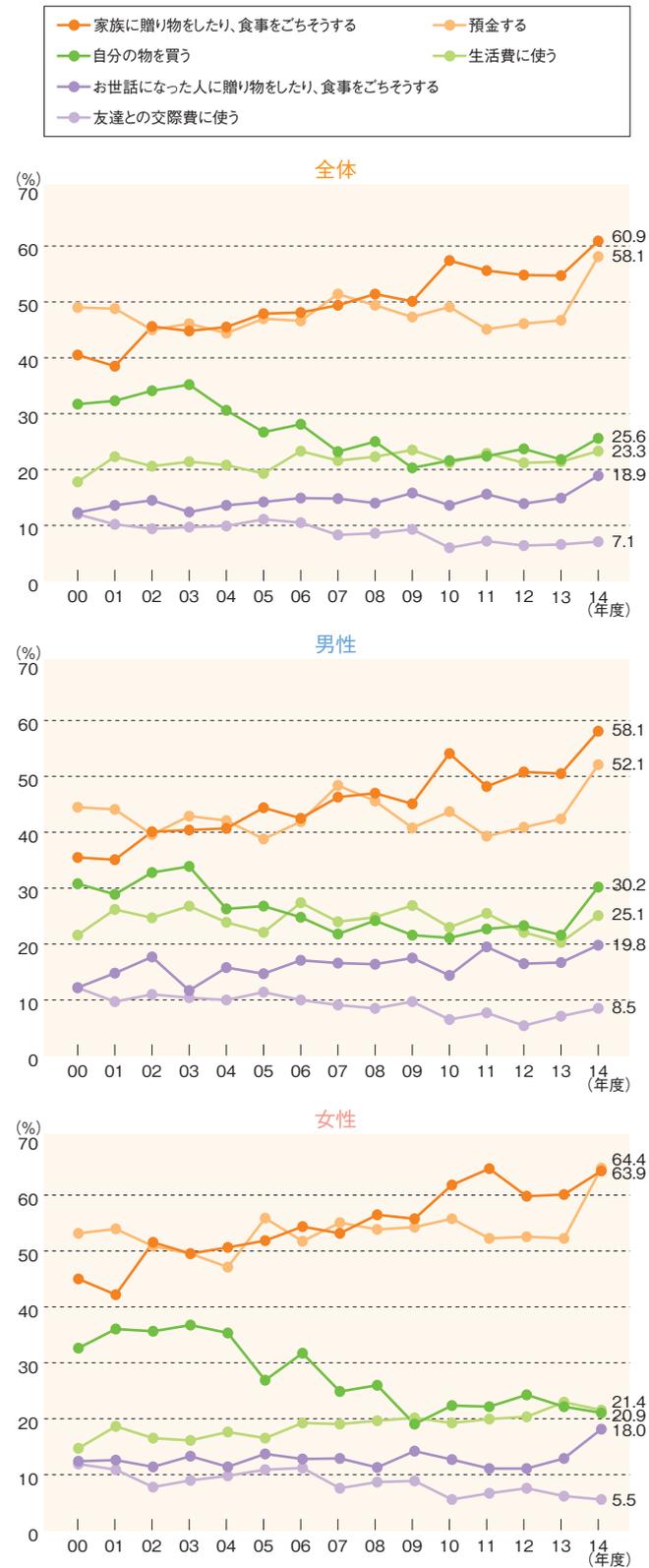


2014年度
新入社員の意識調査 結果

図表4 入社の際の不安(上位5項目の推移)



図表5 初給与の使い道(上位6項目の推移)



一方、男性新入社員の間では、これまで同様、女性上司の名前は挙がっておらず、女性上司の受け入れは広まっていないことがうかがえる。

(7) 小括

今回の調査では、男性と女性の傾向が分かれた。男性は「管理職志向」が強まるとともに、上司・先輩との人間関係でも「積極派」が昨年度より若干減ったとは言え、依然多数を占め、また、初給与の使い道でも「自分の物を買う」が上昇するなど、積極的な姿勢が目立った。入社の際の不安で「業界知識・業務内容」や「上司・先輩との人間関係」が上昇したのも、仕事に対しての積極的な姿勢の裏返しと言える。

一方、女性では「管理職志向」が低下し、上司・先輩との人間関係で「ほどほど派」が多数を占め、初給与は「預金」

するなど「現実主義的」な傾向が目立った。

近年、「草食男子」「肉食女子」と言われるように男性の消極性、女性の積極性が注目されてきたが、今年度の新入社員アンケートの結果からは逆の傾向が見て取れた。今後、この傾向が続くのか注目していきたい。

2 新入社員の海外勤務に関する意識

経済のグローバル化によって、最近では、多くの企業が海外へ進出し、勤務地が国内とは限らなくなってきている。また、国内でも外国人とともに働くことが増えてきた。

そこで、今回の新入社員の意識調査では、新入社員の海外旅行や留学の経験、海外勤務についての考えなどについてアンケートを実施した。

図表6 理想の上司

(敬称略)

	順位	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
全体	1	所ジョージ	イチロー	所ジョージ	所ジョージ	天海祐希	天海祐希	タモリ
	2	星野仙一	島田紳助	島田紳助	島田紳助	所ジョージ	明石家さんま	明石家さんま
	3	タモリ	所ジョージ	明石家さんま	明石家さんま	明石家さんま	イチロー	天海祐希
	4	島田紳助	タモリ	イチロー	イチロー	イチロー	所ジョージ	イチロー
	5	明石家さんま	明石家さんま	タモリ	池上彰	タモリ	北野武	堺雅人
	6	北野武	原辰徳	北野武	天海祐希	池上彰	タモリ	所ジョージ
	7	東国原英夫	北野武	関根勤	関根勤	真矢みき	池上彰	松岡修造
	8	篠原涼子	真矢みき	真矢みき	武田鉄矢	北野武	松岡修造	真矢みき
	9	イチロー	篠原涼子	原辰徳	北野武	江角マキコ	真矢みき	江角マキコ、北野武、 篠原涼子
	10	みのもんだ	天海祐希	天海祐希	真矢みき	高田純次	江角マキコ	
男性新入社員	1	所ジョージ	イチロー	所ジョージ	イチロー	イチロー	イチロー	タモリ
	2	星野仙一	島田紳助	イチロー	所ジョージ	所ジョージ	明石家さんま	イチロー
	3	北野武	所ジョージ	島田紳助	明石家さんま	明石家さんま	所ジョージ	明石家さんま
	4	明石家さんま	タモリ	明石家さんま	島田紳助	北野武	北野武	所ジョージ
	5	タモリ	北野武	タモリ	池上彰	高田純次	タモリ	北野武
	6	島田紳助	原辰徳	北野武	北野武	タモリ	松岡修造	堺雅人
	7	イチロー	明石家さんま	原辰徳	武田鉄矢	上田晋也	池上彰	松岡修造
	8	松本人志	星野仙一	関根勤	関根勤	阿部寛	落合博満	坂上忍
	9	落合博満	松本人志	星野仙一	タモリ	長谷部誠	タモリ	福山雅治
	10	東国原英夫	落合博満、高田純次、みのもんだ	大泉洋	星野仙一	池上彰、みのもんだ	水谷豊	松本人志
女性新入社員	1	所ジョージ	島田紳助	島田紳助	天海祐希	天海祐希	天海祐希	タモリ
	2	島田紳助	所ジョージ	明石家さんま	真矢みき	真矢みき	明石家さんま	天海祐希
	3	タモリ	タモリ	所ジョージ	島田紳助	所ジョージ	真矢みき	明石家さんま
	4	篠原涼子	イチロー	真矢みき	所ジョージ	明石家さんま	江角マキコ	真矢みき
	5	明石家さんま	明石家さんま	天海祐希	篠原涼子	池上彰	所ジョージ	堺雅人
	6	東国原英夫	真矢みき	タモリ	明石家さんま	江角マキコ	櫻井翔	篠原涼子
	7	久本雅美	篠原涼子	黒木瞳	関根勤	タモリ	池上彰	江角マキコ
	8	星野仙一	天海祐希	関根勤	館ひろし	篠原涼子	篠原涼子	櫻井翔
	9	黒木瞳	久本雅美	武田鉄矢	池上彰	イチロー	菅野美穂	EXILE HIRO、館ひろし
	10	みのもんだ	ベッキー	ベッキー	タモリ	ベッキー	松岡修造	ベッキー

(注) 網掛けは2014年度全体で回答率が高かった上位3位までの人。

(1) 海外渡航の経験

…男性よりも女性の方が海外旅行や留学には積極的

「あなたは海外に行ったことがありますか」と尋ねたところ、海外に旅行や留学で行ったことがあると回答した人は493人(43.5%)、無いと回答した人は640人(56.5%)だった(図表7)。

男女別に見ると、男性では海外に行ったことのある人の割合は37.4%にとどまったが、女性は50.3%とほぼ半数にのぼった。

1980年代後半から海外旅行や留学が一般的になってきており、学生時代から海外へ行ったことのある人が増えており、特に女性にその傾向が強いことが明らかとなった。

(2) 海外旅行の経験

…男女とも1位欧米、2位韓国・台湾
特に韓国・台湾は女性に人気

海外へ行ったことのある人のうち、旅行で行ったことのある人は延べ(以下同じ)763人で、行き先の1位は欧米で302人だった。次いで韓国・台湾が202人、東南アジア127人、中国71人だった(図表8)。その他の行き先では、オーストラリアやニュージーランドなどが多かった。

男女別で見ると、海外旅行へ行ったことのある男性は327人、女性は436人だった。男女とも行き先は1位欧米、2位韓国・台湾、3位東南アジアだった。特に韓国・台湾へ旅行したことがある女性が137人と、同国・地域へ旅行したこと

のある男性65人と比べ多かった。

欧米や韓国・台湾への旅行には複数回行った人も多く、2回行った人が欧米と韓国・台湾でそれぞれ53人と38人、5回以上の人も同17人と13人いた。

(3) 海外留学の経験

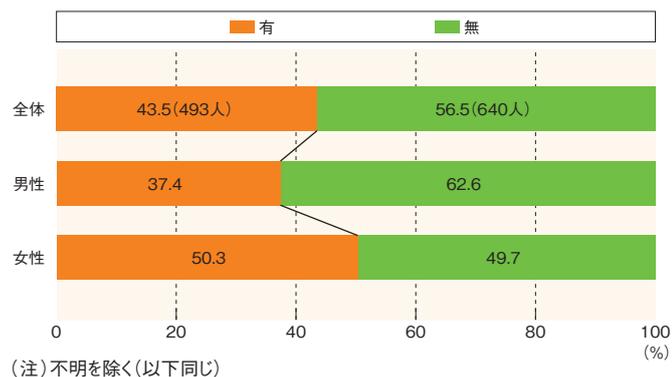
…1位欧米、2位中国。旅行の行先とは逆転し、
中国が韓国・台湾や東南アジアよりも人気

海外に行ったことのある人のうち、留学したことのある人は延べ(以下同じ)92人で、うち男性は41人、女性は51人だった(図表9)。

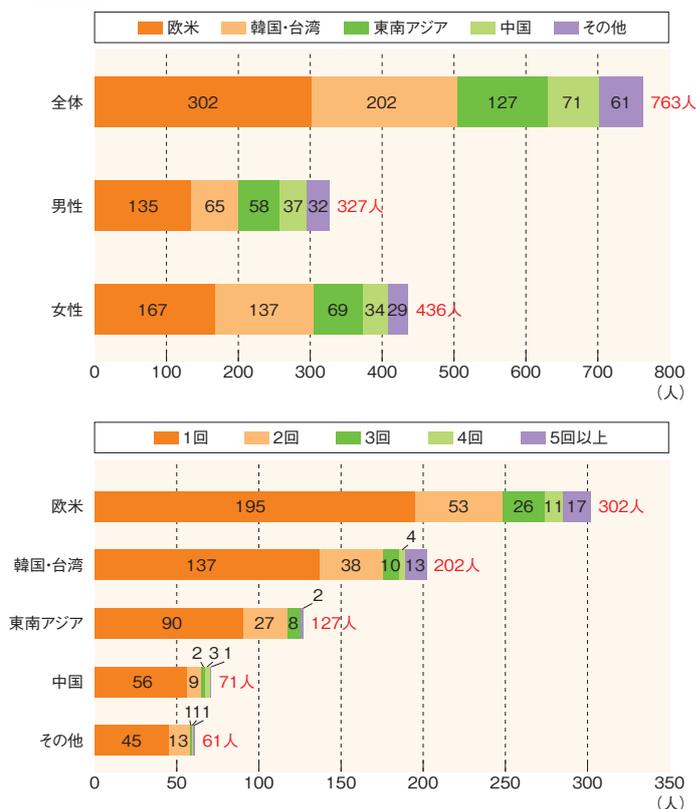
行き先は1位が欧米で43人だった。次に中国が11人、東南アジアは8人、韓国・台湾は5人だった。その他の留学先では、オーストラリアやニュージーランドが18人と欧米について多かった。英語学習が目的の留学が多いと思われる。

旅行としても留学としても欧米が行先としては1位だった

図表7 海外渡航の経験有無



図表8 海外旅行の行先と回数



が、2位以下では、旅行の行先とは逆転し、留学先は中国が韓国・台湾や東南アジアよりも多かった。

留学の期間は欧米への留学では1ヵ月が16人、2ヵ月以上半年未満が7人、半年以上1年未満が11人、1年以上が9人だった。中国への留学では1ヵ月が5人、2ヵ月以上半年未満が4人、半年以上1年未満が1人、1年以上が1人だった。

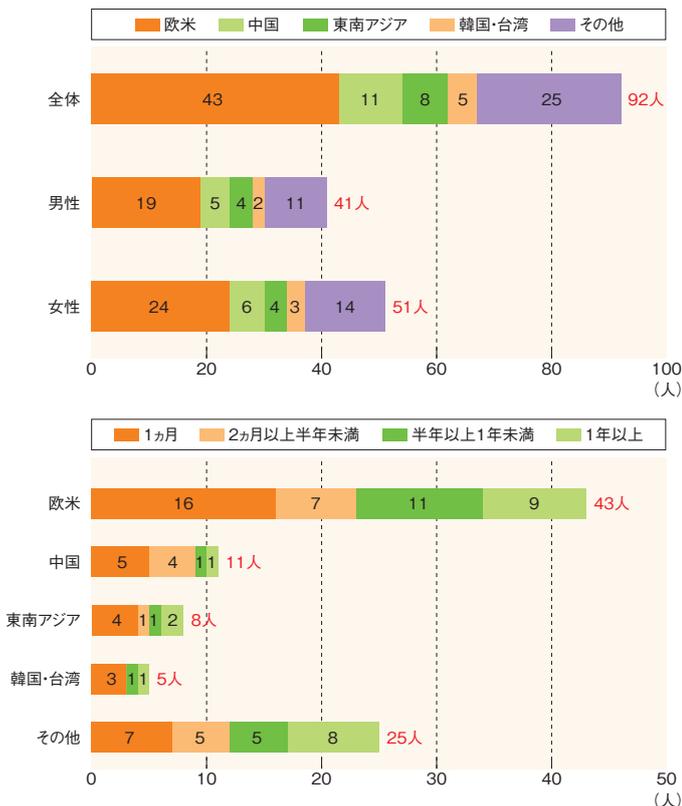
欧米以外の留学では半年未満の短期留学がほとんどであり、主に異文化体験を目的としていると考えられる。

(4) 海外勤務についての意識

…男女とも「働きたい派」が欧米では約4割、一方中国では約1割

国・地域別に「あなたは海外で働きたいですか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、「働きたい」もしくは「どちらかといえば働きたい」と回答した人の割合は欧米が1位で40.5%だった(図表10)。次いで、韓国・台湾が18.2%、東南

図表9 海外留学の行先と期間



アジア17.8%、中国10.0%だった。

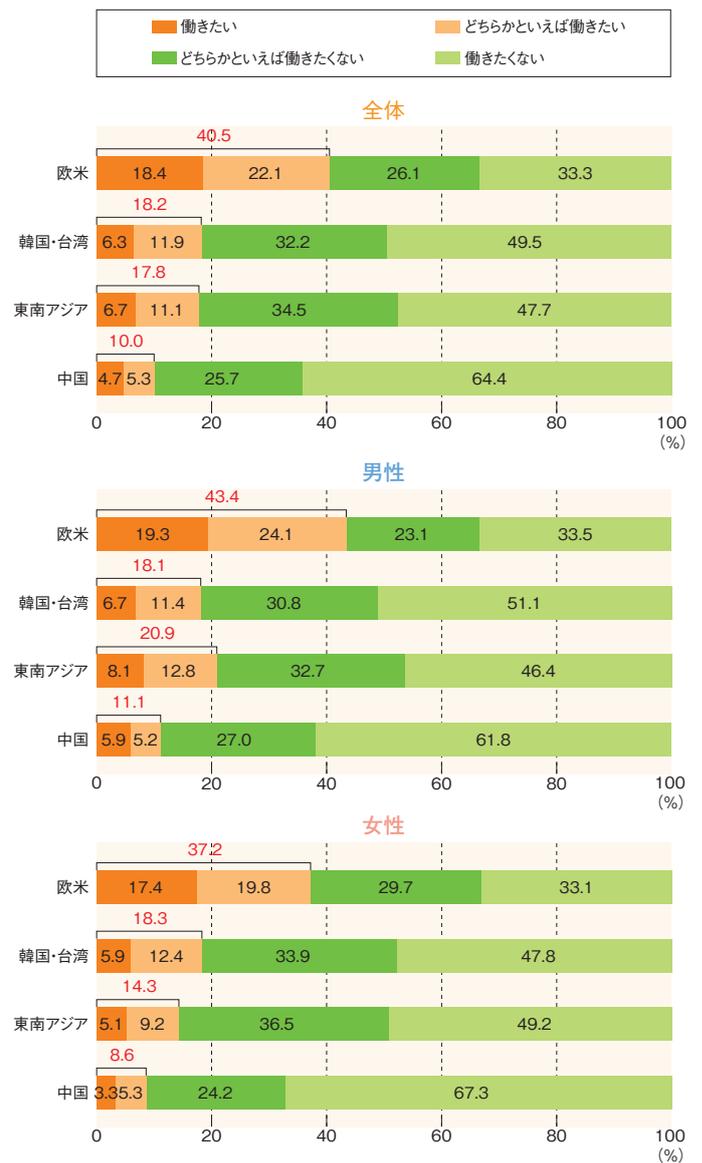
男女別でみると男女とも同割合が一番多かったのは欧米だったが、2番目に多かったのは男性では東南アジア20.9%、女性では韓国・台湾18.3%だった。

(5) 海外で働きたい理由

…男女とも1位「日本ではできない経験を積みたい」

働きたい理由(いくつでも選択可)を国・地域別に尋ねた

図表10 海外勤務についての意識



2014年度
新入社員の意識調査 結果

ところ、「日本ではできない経験を積みたい」がいずれの国でも1位だった(図表11)。次いで、欧米や韓国・台湾では「語学力をつけたい」が2位だったが、東南アジアや中国では「これからの仕事・昇進に役立つ」が2位だった。

特に男性は欧米以外ではいずれの国・地域でも「これからの仕事・昇進に役立つ」が2位だった。一方、女性は「これからの仕事・昇進に役立つ」よりも「語学力をつけたい」が欧米や韓国・台湾では顕著に多く、東南アジアや中国でも

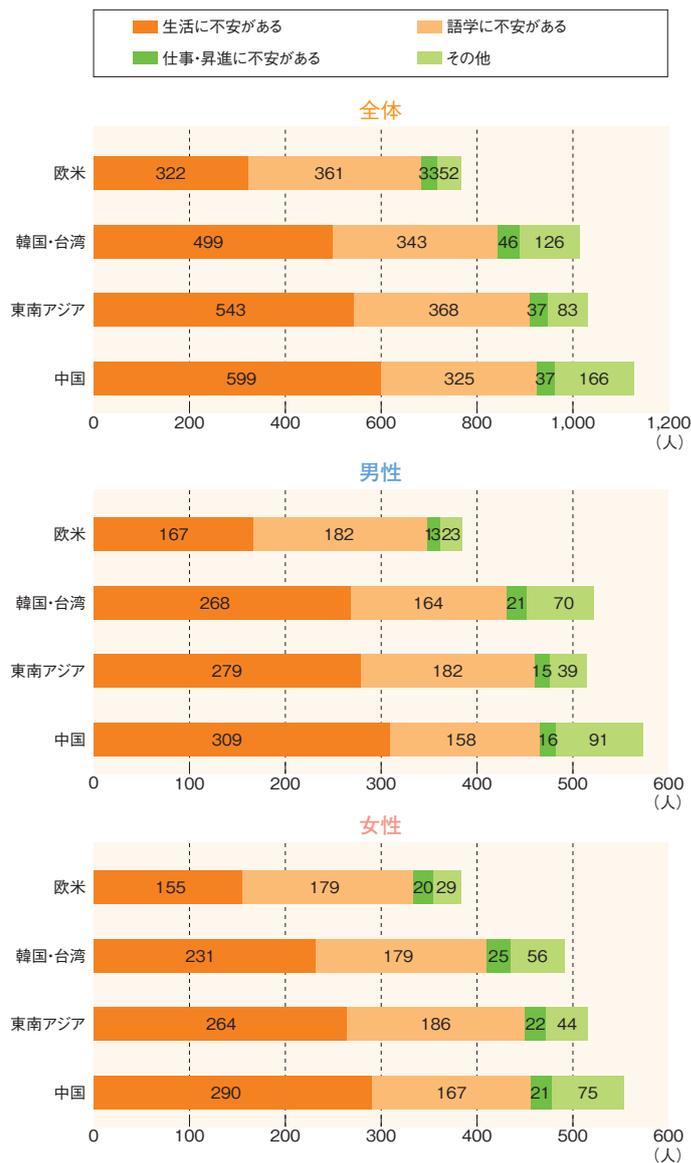
ほぼ同じもしくは若干多かった。

この結果は、前節の「(2) 将来就きたい地位」において明らかになったとおり、管理職志向が強い男性は海外勤務を「これからの仕事・昇進に役立つ」という点から見ており、一方、スペシャリスト志向が強い女性は「語学力をつける」ことでより自分のスキルアップをはかり、強みの一つとすることを重視しているためと言えるだろう。

図表11 海外で働きたい理由



図表12 海外で働きたくない理由



(6) 海外で働きたくない理由

…男女ともすべての国・地域で
「生活に不安」と「語学に不安」があるため

次に、働きたくない理由(いくつでも選択可)を国・地域別に尋ねたところ、いずれの国でも「生活に不安がある」と「語学に不安がある」が多かった(図表12)。欧米では「語学に不安がある」の方が多かったが、韓国・台湾、東南アジア、中国では「生活に不安がある」の方が多かった。この結果は、韓国・台湾、東南アジア、中国でも語学に不安はあるものの、生活への不安の方が大きいためと思われる。男女の差はあまりなかった。

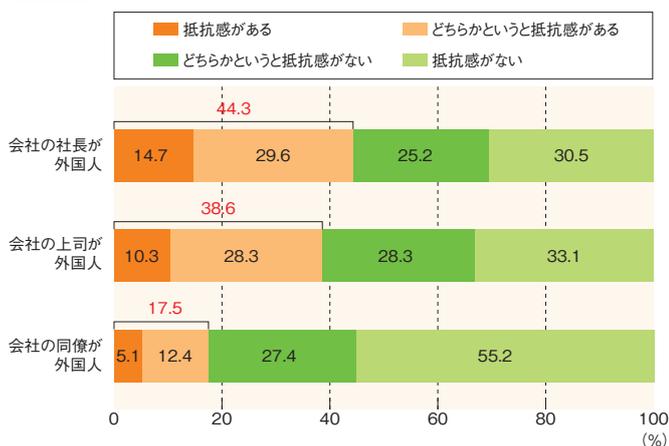
また、特にその他の記述で目立ったのは、中国や韓国・台湾での反日感情に対する不安だった。

(7) 外国人との勤務

…外国人の社長・上司のもとで働くことには抵抗感があるものの、外国人と同じ立場で働くことには抵抗感はない

外国人との勤務について、状況別に「会社で外国人と働くことになった場合、どのように感じますか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、「会社の社長が外国人」の場合は「抵抗感がある」「どちらかという抵抗感がある」が合わせて44.3%だが、「会社の上司が外国人」の場合は同38.6%、「会社の同僚が外国人」の場合は同17.5%だった(図表13)。

図表13 外国人との勤務についての意識



一緒に働くことになる外国人の立場が自分に近づくほどに抵抗感が薄れることがうかがえた。この結果は外国人が社長や上司の場合、仕事の仕方や人事評価などが日本の職場とは違うのではないかという不安がある一方、外国人が同僚として働く場合、仕事の仕方や人事評価は日本と変わらないと感じるためではないかと思われる。さらに、図表にはないが性別による違いはなかった。

(8) 小括

今や海外へ行くことは学生の間でも一般化しており、新入社員の4割は海外渡航の経験があった。行き先は旅行でも留学でも欧米が多かったが、韓国・台湾や東南アジアは旅行先として、中国は留学先として選ばれていた。留学先として中国が選ばれているのは、海外勤務の理由として「これからの仕事・昇進に役立つ」が多かったことから、就職や将来の仕事も考えてのことと思われる。

海外勤務については、欧米での勤務には4割程度が「働きたい」「どちらかといえば働きたい」と答えた一方、中国では1割にすぎず、国・地域によって大きな違いがあった。働きたい理由としては男性では管理職志向が強まっている傾向と一致して「これからの仕事・昇進に役立つ」という理由が目立つ一方、女性ではスペシャリスト志向から「語学力をつけたい」という理由が目立った。働きたくない理由としては男女ともすべての国・地域で生活の不安と語学の不安が多かったが、特にその他の記述で目立ったのは、中国や韓国・台湾での反日感情に対する不安だった。

総じて、海外経験はそこそこあるものの、海外での勤務、特に欧米以外では生活の不安や現地での反日感情への不安から消極的な姿勢が明らかとなった。ただし、日本で外国人が同僚として一緒に仕事をするにはそれほど抵抗は感じられなかった。

(2014.5.15) 共立総合研究所 調査部 市來 圭
中島 奈美